

日本農業新聞

植物医師に関心

千葉県柏市で東大が 一般向け養成講座 700人超の応募

東京大学が千葉県柏市で一般市民向け講座として6月以降、開講予定の「コミュニティ植物医師養成プログラム」の受講生を募集したところ、説明会に700人以上の応募があった。東大では家庭菜園ブームなどで、主婦や退職者の間に植物病に対する関心が高まっていると見ている。

東大は同市内にキャンパスがあることから、市と連携して今年から5年間かけ、植物医科学の普及を目指した社会実験を始める。同プログラムはその一つ。6〜7月と9月にそれぞれ50人規模、各6回の

講座を開くため、説明会を6月13日に予定した。募集を始めたところ、これまで700人以上の応募があった。インターネッットなどで情報が広がり、和歌山県からも応募者があった。予定した会場に入りき

らないことから、17日にも説明会を開く。1回の講座の参加者枠も70人に増枠、さらに回数を増やす考えだ。家庭菜園などでの植物病の初歩的な診断ノウハウを学べるよう、講座内容は、微生物病、虫害、

土壌・生理障害、農薬の使い方、顕微鏡などを使った診断実習を予定している。参加費は無料だ。

東大植物医科学研究室の難波成任教授は「平日の開催なので主婦や定年退職者の応募が多い。家庭菜園などを通して農業への関心が高まっていることが背景にある」と、予想以上の反響に驚いている。